

対象学年のめやす
実践する場面
プログラムのねらい

小学校（中・高学年） 中学校
総合的な学習の時間、特別活動

「対立」を二人または複数間で起こる口論または意見の不一致ととらえ、「対立」をしっかりと見つめながら、落ち着いて相手と一緒に解決していける力をつけることで、「対立」を諦めずに解決する展望がみえてくるようにする。



E2 対立と解決 プログラムの流れ

レッスン1 気持ちを出し合う：「もやもや書き」
(『にんげん～ひと ぬくもり』)
気持ちや生活を出し、分かり合う。



レッスン2 対立・問題の解決のために（資料）
対立とは / 考え方の基本 / 対立を激しくする言葉や態度 / 対立をこう扱おう“おっ、いいか” / 対立をとらえる視点



レッスン3 クラス内の対立の解決を考える：
「見えてきた、みえてきた」(彫像演劇)
対立に表れた問題を見つけ、解決の見通しをもつ。



レッスン4 発表：「こうして解決します」(寸劇)
レッスン3でみえてきたことを、学年で発表。自分たちができることを確認。

A3「ハートOK」プログラム
アサーション・トレーニング
「私メッセージ」

対立を扱うスキルの学習

カラダを使って考えるワークショップ



< 参考図書 >

大阪府教育委員会 『人権教育のための資料4』（巻頭論文）H15、『同6』（同）H17
大阪府人権教育研究協議会 『わたし 出会い 発見 Part6』H18
ウィリアム・クライドラー著、ERIC 国際理解教育センター編訳 『対立から学ぼう』H9
ERIC 国際理解教育センター 『対立は悪くない』H8
角田尚子・ERIC 国際理解教育センター著 『人権教育ファシリテーター・ハンドブック』H8、同 『レッツ・コミュニケーション』H9、



レッスン1 気持ちを出し合う：「もやもや書き」

意義	子どもたちは、一人一人生活背景があり、人間関係の中で葛藤をもち、様々な悩みを抱えている。それらを表現できないと、自分や他者を否定しがちになる。自分の気持ちを出すことで、解決に近づけていくことと、自分への自信と他者への信頼を育てていくことが大切である。
目的	心のもやもやを書くことで、気持ちを出し合い、分かち合う。 お互いの個性を認めると同時に、抱えている生活や悩みに目を向けることで、人に対する一面的な見方や決めつけではなく、多様で公正な見方を身に付ける。
手法	読み物教材、話し合い
準備物	「もやもや書き」(『にんげん～ひと ぬくもり』P22～27)
所要時間	約 45 分
進め方	

区分	学習活動・学習内容	指導者の働きかけ・留意点
導入	クラスの子のエピソードの紹介 (意外な一面や、気づきにくい気持ち)	例) AはBに と言われて辛かったのに頑張ってたの、気づいてた? お互いのことをもっと分かり合うために学びます。
展開 1	本文を読んで、2人の気持ちを理解。 ・“ゆきえのもやもや書き” ・“たかしのもやもや” たかしに対する決めつけに気づく。	反応例) = たかしにいやがらせをされて嫌な気持ち = 家の悪口を言われて悔しい気持ち = いやがらせをする子、兄が夜遊びする家の子
展開 2	自分の“もやもや”を書く。 時間を与える。 発表 - お互いの“もやもや”な気持ちを理解し合う。 子どもどうしの中にある力関係や決めつけ等を問題として焦点化する。	・「自分の正直な気持ち、嫌なこと・辛いことも出して、分かってもらおう。」 ・書きにくい子に寄り添う。ふだんの様子や気持ちの変化を見て感じることを尋ねながら引き出す。 ・「このクラスなら気持ちを言える、分かってもらえるというクラスにしよう。」 生活の背景や悩みを出して分かり合えるようにする。
まとめ	「“もやもや”で出てきたクラスの問題については、これから考えていこう。」 これからのクラスの方向性	「気持ちを出すことで分かり合えること、友達の見方が深まったと感じたはず。」等、整理する。

発展 これをきっかけに、日記や生活ノートの習慣をつくる。

“もやもや”などみんなの気持ちを学級会や、学級通信で紹介。

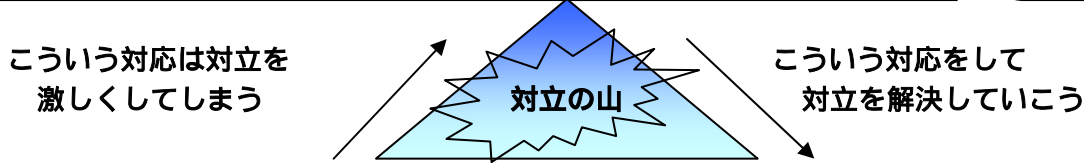
留意点 日記を発表したり、学級通信に掲載するに当たっては、個人情報やプライバシーにかかわるので、本人・保護者との信頼関係のもと、了解を得ること。



レッスン2 対立・問題の解決のために（資料）

1 対立を前向きにとらえよう～「対立」とは、意見の不一致や口論のこと。
 対立は悪くない。当たり前で自然なこと。
 対立を、勝ち負けに結びつけない。
 それぞれが望んでいることを手に入れる。
 万能の解決策はない。ときと場合によって解決策は違う。

2 考え方の基本
 対等な関係
 お互いを尊重
 違いを認め合う



- 対立を激しくする言葉や態度 決めつけ**
 (「～にちがいない」)
- 一般化する**
 (「いつも」「絶対」)
- 圧倒する**
 (大声でののしる)
- やり返す**
 (相手の性格を責める)
- むし返す**
 (「前もこうだった」)
- 無視・突き放す**
 (「アホらしい」)
- 問題をそらす**
 (「そんなことよりも...」)
- 忠告する**
 (「～すべきだ」)

3 対立をこう扱おう～ “おっ、いいか！”
 まず、対立があることを認める
お：「落ち着いて」

い：「一緒に考えよう」
 問題を話し合って解決しようよと合意する。

い：「言い分はそれぞれ」
 お互いの気持ちととらえ方を正直に話し共有する。

か：「解決していこうよ」
 納得できる解決策を提案し、合意する。

<p>対立をとらえる視点</p> <p>目標 (この対立を解決したい目標)</p> <p>要求 (満たしたい感情や気持ち)</p> <p>見解 (見方やとらえ方)</p> <p>経験 (これまであったこと)</p> <p>価値観 (その人の信念)</p>	<p>(例) Aは、ヘタだけどー生懸命練習してる姿をBに笑い者にされて、腹が立った。 ...バカにされたくない。 自分を認めてほしい。 ...Bに謝ってほしい。 悔しさをBにぶつけない。 ...Bだってヘタなくせに。 みんなで笑うとは許せない。 ...Bに前もいじわるされた。 前もみんなに笑われた。 ...努力することは大切。 努力もしないBは許せない。</p>
<p>要望 (対立状態にいる今の願い)</p> <p>本心 (要望の本当の理由)</p>	<p>...逆にBを笑い者にしたい。 Bを何かでハズしてやろう。 ...二度とバカにされたくない。 みんなに認められたい。</p>

「対立」は感情まかせになりがち。この二つを区別して考えられるように。

要望 **本心**

(参考)ウィリアム・クライドラー著、ERIC 国際理解教育センター編訳『対立から学ぼう』H9 (P4,P21,P37,P72,P74,P80,P106,P117)



レッスン3 クラス内の対立の解決を考える：「見えてきた、みえてきた」

意義 クラス内の対立について、「あの子には言ってもムダ」という諦めや、「どうせ自分が言っても聞いてくれない」という力関係をうち破りたい。当事者だけでなく、「自分には関係ない」・「とばかりを食らうのは損」という見て見ぬふりの傍観者の存在が大きな問題である。学級の課題・自分とつながる問題として主体的に考えさせる。彫像演劇という目に見える楽しい手法を通じて、問題をはっきりさせると同時に、解決できるという確信を体と心で感じることができる。

目的 対立をめぐる当事者や傍観者の気持ちを浮き彫りにし、それぞれができることを考えることで、解決の見通しをもつ。

手法 彫像演劇（カラダを使って表し考える）

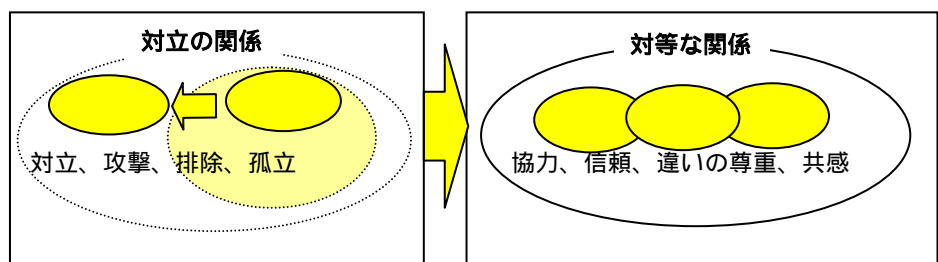
所要時間 約 45 分

進め方

区分	学習活動・学習内容	指導者の働きかけ・留意点
導入	アイスブレーキング 例) 鏡のワーク/ジェスチャー	体を使って表現するワークに抵抗なく楽しい気持ちで入れるようにする。
展開	クラスで気になる対立(問題)を各班で一つずつ考える。 その「a対立」を班員で表現する。(写真のように静止した一場面で表す) 班ごとに発表する。他の班は何をテーマにしたものか当てる。人物のそれぞれが何をしているかも考えさせる。 次に、その対立を「c解決した状態」を考え、同様に表現し、発表する。 では「a対立」を「c解決した状態」に近づけるために「b解決に向けた一歩、今すべきこと」を考え表現する。 a b cの順で連続して発表。 教師が肩に触れた人は、その人物になりきってその気持ちを一言言う。	(レッスン2「もやもや書き」で出てきたことや学級通信をふり返る。) 辛い思いをした者が再体験してさらに辛い思いをしないように気をつける。 aの例 ・グループ間の対立で、悪口を言われてはずされている場面。 ・授業中騒ぐ子が、注意しても聞いてくれないし、知らんぷりの子もいる場面。 当事者の辛い思いを共感できるようにする。 傍観者の葛藤をゆさぶり、少しでも行動を起こせる気持ちを育てる。
まとめ	対立は解決できること、力関係をなくすこと、辛い思いの子の立場を考えると、自分たちのもっている力への自信、クラスへの信頼	「対立があっても、諦めなければ、解決できる。」「みんなにはそれだけの力(エンパワメント)がある。自信をもとう。」「クラスを信頼しよう。」

～仲間づくりと結びつけながら～

<生活を通して信頼し合える仲間づくり>





「見えてきた、みえてきた」の例（彫像演劇）

a 対立

A B C D E



各人物の立場と気持ち

- A (加害者) 笛持ってくるの面倒。Cは逆らわない。
- B (同調者) 音楽室で笛鳴らして騒ごうぜ。
- C (被害者) Aは昔は友達だったのに。今は怖い。
- D (友人) C困ってるなあ。でも言う勇気ない。
- E (傍観者) 関係ない。巻き添え食いたくない。

(音楽授業前) A「おいC、笛忘れたから貸せよ！」毎度だが、Cは怖いからイヤイヤ渡す。

b 解決に向けた一歩、今できること（過程のイメージ）



- A どうせ音楽や勉強わからんから面白くないもん。
- B あいつらまとまってきてるみたいだぞ...
- C ほんとはAに前のようにまじめにしてほしい。
- D ぼくがついてるからAにイヤって言う。以前友達だったらわかってくれるよ。Eも一緒に言ってよ。
- E えーっ、言うのー？

友人Dの励ましと働きかけで、CがAに気持ちを言えそうに...

c 解決した状態



- A みんな俺を見捨ててなかったんや。ありがとう。
- B Aがやるんならやらなしゃあないなあ。
- C わからんとこあったら聞いてよ。一緒に頑張ろう。
- D やっぱクラスで言うていくと解決できるね。
- E このクラスも捨てたもんじゃないな。

C・Dらの働きかけで、Aは素直になり、クラスもまとまってきた。